

**府内生徒の基礎学力はおおむね定着、
「活用」する力を伸ばす指導の工夫・改善が必要**

平成22年12月27日
学 校 教 育 課

- 1 実施日 平成22年10月27日（水）
- 2 実施対象 府内全中学校（99校）・特別支援学校（2校）の第2学年生徒
- 3 実施教科及び受検者数 国語（9,820人）数学（9,830人）英語（9,836人）
- 4 目 的

学習指導要領に示す目標や内容に照らした学習の実現状況を把握するとともに、指導上の課題を明らかにして授業改善を推進し、一人一人の生徒に基礎・基本の確実な定着を目指す。

5 問題内容

(1) 出題範囲 第1学年及び第2学年1学期までの学習内容

(2) 問題類型及び問題数

基礎・基本に関する問題…基礎的・基本的な知識や技能を問う問題（15問）

活用に関する問題…既習事項を関連付けて解いたり、段階的に思考・判断を重ねたりして解く問題や知識や技能等を実生活の様々な場面に活用する力などを問う問題（10問）

6 結果の概要

(1) 各教科の概要

三教科とも基礎的・基本的な内容については、おおむね学力は定着しているが、活用的な内容については、一部改善されているもののなお指導の工夫・改善が必要である。

※ 数値はすべて正答率（％）

【国語】

問題類型	平均答率
基礎・基本に関する問題	69.3
活用に関する問題	65.1
全 体	67.6

【数学】

問題類型	平均答率
基礎・基本に関する問題	73.5
活用に関する問題	68.7
全 体	71.6

【英語】

問題類型	平均答率
基礎・基本に関する問題	75.9
活用に関する問題	51.4
全 体	66.1

(2) 各教科の分析

【国語】

- ・ 「話すこと・聞くこと」の領域における内容についてはおおむね定着している。
- ・ 「書くこと」の領域においては、各校での「ことばの力」の育成を重視した取組により無答率も減少し、「書く」指導が浸透したことが見られるが、事実から意見を整理し説得力のある文章にまとめるなど活用する力に課題がある。

【数学】

- ・ 「数と式」の領域における基礎的・基本的な内容については、おおむね定着している。
- ・ 体積などを求める「図形」の領域や事象の中の「数量関係」を理解し、表・式・グラフの相互に関連付けて理解したり、表わしたりすることなどに課題がある。

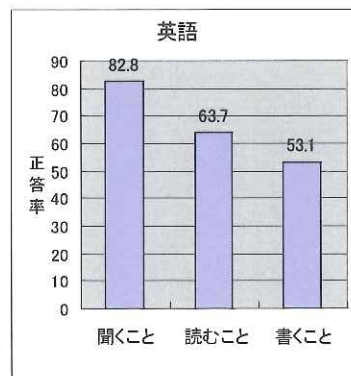
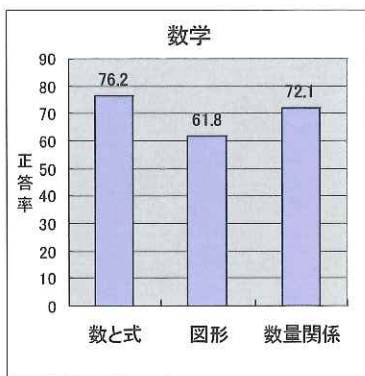
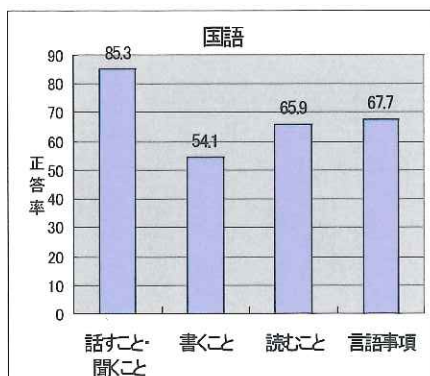
【英語】

- ・ 「聞くこと」、「読むこと」における基礎的・基本的な内容については、おおむね定着している。
- ・ 例年「書くこと」を中心に課題があるが、あるテーマに沿って英語の文をつくる問題では、正答率が増加するとともに、無答率が21年度の28.4%から15.9%に減少し改善が見られる。

領域別正答率 (%)

領域別正答率 (%)

領域別正答率 (%)



7 学力分布の経年比較

昨年度と比較すると三教科とも課題がある学力層がやや減少している。

※ 数値はすべて人数比率 (%)

【国語】



【数学】



【英語】



【分析方法】

- ・ 問題類型・問題数が同様の平成21年度と22年度を比較
- ・ 各教科・各年度の平均正答数以上の生徒をA層とし、平均正答数未満の生徒をB層（上位）、C層（下位）に二分割して分析

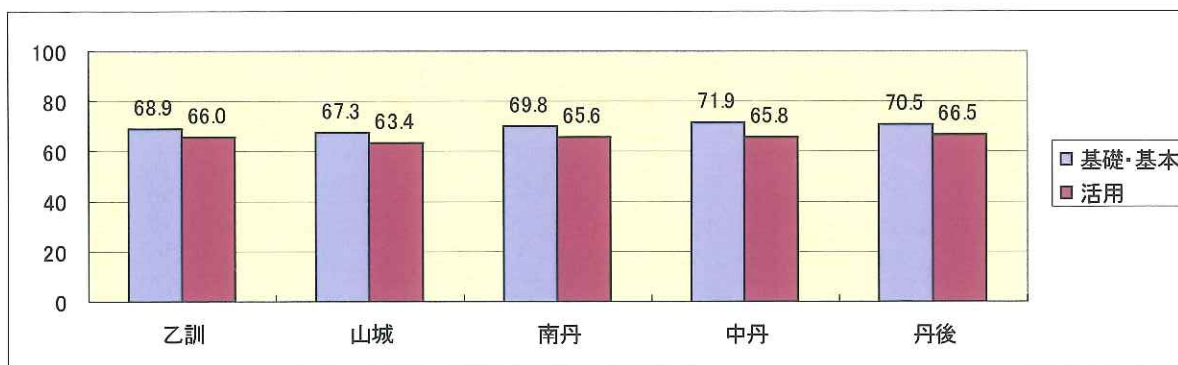
8 診断テストの分析及び活用

各校では個別データ整理表示ツール「こべつーる」を活用し、生徒一人一人の学力の分析・授業改善の方策の検討を進めている。また、総合教育センターにおいて「分析・活用講座」を実施し、各校への支援を行っている。

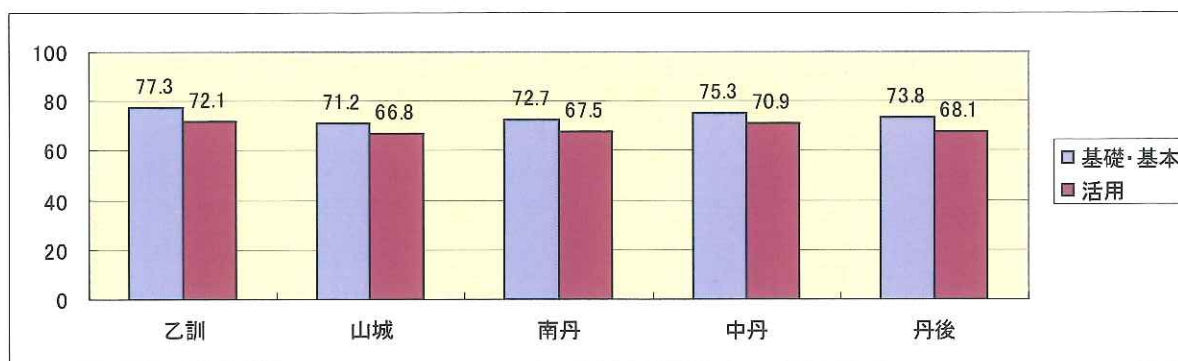
【参考】 教育局別の状況

【国語】

※ 数値はすべて正答率（％）



【数学】



【英語】

